

氏名	関 典 子
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3797号
学位授与の日付	平成14年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	子宮体癌における血管新生因子の発現とその意義 第1編 Angiogenesis and platelet-derived endothelial cell growth factor/thymidine phosphorylase expression in endometrial cancer (子宮体癌における血管新生とPD-ECGFの発現について) 第2編 Vascular endothelial growth factor and platelet-derived endothelial cell growth factor expression are implicated in the angiogenesis of endometrial cancer (VEGFおよびPD-ECGFの発現は子宮体癌における血管新生に関与する)
論文審査委員	教授 佐々木 順造 教授 清水 憲二 教授 白鳥 康史

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

固形癌はその進展・転移のために血管新生が必要であることが知られている。本研究では子宮体癌におけるVEGFおよびPD-ECGFの発現と臨床病理学的因子ならびに微小血管数との関連性を検討した。当科における子宮体癌109症例についてPD-ECGFの発現と微小血管数を免疫組織学化学的に、また38症例についてVEGFとPD-ECGFの発現をRT-PCR法を用いて検討した。その結果、PD-ECGFは間質細胞に高発現しており、低分化型腺癌で有意に高値であり、VEGFは非内膜型腺癌および脈管侵襲陽性例で有意に高値であり、いずれも微小血管数と有意に相関していた。また微小血管数は高齢者、低分化型腺癌、脈管侵襲陽性例で有意に高値であり、独立した予後因子であった。VEGFおよびPD-ECGFは子宮体癌の血管新生に重要な役割を果たし、非内膜型腺癌や低分化型腺癌のaggressive potentialに関与している可能性が示唆された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、固形癌の進展・転移に必要な血管新生の役割を検討するため、子宮癌における vascular endothelial growth factor (VEGF) および platelet-derived endothelial cell growth factor (PD-ECGF) の発現と、臨床病理学的因子ならびに微小血管数との関連性を免疫組織化学法および RT-PCR 法を用いて研究したものである。PD-ECGF は低分化型腺癌に有意に高値であり、VEGF は非内膜型腺癌および脈管侵襲陽性例で有意に高値であり、いずれも微小血管数と有意に相関していた。また微小血管数は、高齢者、低分化型腺癌、脈管侵襲陽性例で有意に高値であり、独立した予後因子であった。これらの結果により、VEGF および PD-ECGF の、子宮体癌の血管新生および腫瘍の進展の促進における役割について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。